7923 kuraku 久楽 東海道 53 次：土山宿 447

土山宿本陣跡

土山宿は、東海道の起点である江戸日本橋より、百六里三十二町、終点京都三条大橋まで十五里十七町余の位置にある。

土山宿本陣は、寛永十一年（一六三四）、三代将軍徳川家光が上洛の際設けられた。土山氏文書の「本陣職之事」によってわかるように、甲賀武士土山鹿之助の末裔土山喜左衛門を初代として之を勤めた。

本陣は当時の大名、旗本、公家、勅使等が宿泊したもので、屋内には現在でも当時使用されていたものが数多く保存されており、宿帳から多くの諸大名が宿泊したことを知ることができる。

明治時代になると、皇室の東京・京都間の往来も頻繁となり、土山宿にご宿泊されることもしばしばであった。なかでも明治元年九月、天皇行幸の際には、この本陣で誕生日を迎えられて、第一回天長節が行われ、土山の住民に対し、神酒・鯛が下賜され、今なお土山の誇りとして語りつがれている。

本陣は、明治維新で大名の保護を失い、明治三年（一八七〇）宿駅制度の廃止に伴いなくなった。

平成三年三月二十五日

土山町教育委員会

山はみどり　野に花　人にはこころ